

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 原発性自然気胸に対する単孔式胸腔鏡下手術による2重カバーリング法
の実際と治療成績（No. ）

当院の実施責任者 坪島顕司（気胸研究センター）
（所属）

他の研究機関および
各施設の研究責任者（所属） なし

本研究の目的

胸部外傷など明らかな原因がないにも関わらず肺が自然にしぼんでしまう病気が自然気胸です。その中でも若く背の高い男性に多く発症するのが原発性自然気胸です。体質的に肺の表面にブラと呼ばれる嚢胞が発生し破綻することで発症します。特に10代の患者さんは手術で嚢胞の切除等を行っても、新たにブラが発生し再発率が高いことが知られています。当院では以前から再発率を減少させる方法に取り組んでおり、ブラを切除等したうえで肺を補強する方法を行っています。最近ではネオパールシート（ポリグリコール酸）とポルヒール（フィブリン糊）をブラが発生しやすい部分に貼付する一般的な手法に加えて、サージセル（再生酸化セルロースシート）で更に広範な補強（2重カバーリング法）を行い、若い患者さんの再発率を大きく低下させることを2019年に論文で報告しました。この手術は3つの傷で胸腔鏡下に行っていました（3ポート手術といいます）が、最近は執刀医が安全に実施できると判断した場合は1つの穴の胸腔鏡下手術（単孔式胸腔鏡下手術）でも2重カバーリング法を行っています。一般的に単孔式胸腔鏡下手術は術後の痛みがより少なく、傷も目立ちにくい方法として知られています。

今回、2019年1月から2023年8月までに原発性自然気胸に対し当院で単孔式胸腔鏡下手術あるいは3ポート手術を受け、2重カバーリング法を行った方を対象とし患者さんの背景、手術中の注意点、手術時間、出血量、術後再発の有無、有害事象、術後に新しいブラが発生しているかどうか、術後の癒着状態、術後呼吸機能等を調査いたします。

本研究を学会、論文発表することで、本治療方法が普及し原発性自然気胸の患者さんにより再発率が低く負担の小さな治療を提供できることが期待されます。

調査期間 倫理委員会承認後から2025年3月31日まで

研究の方法 ●対象となる患者さま
(使用する試料等) 当院で2019年1月から2023年8月までに原発性自然気胸に対し当院で2重カバーリング法を行った方（単孔式胸腔鏡下手術約60名、3ポート手術約150名）

●利用する情報

カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します

試料/情報の他の研究機関への
提供および提供方法
個人情報の取り扱い

共同研究施設以外への試料・情報の提供はありません

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。本研究のために収集したデータは共同研究以外では使用せず、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去します。

本研究の資金源
(利益相反)

本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

お問い合わせ先

電話：03-3700-1151（代表）

担当者：坪島顕司

備考